



岡山大学記者クラブ 御中

令和 3 年 4 月 22 日
岡 山 大 学

**大学院ヘルスシステム統合科学研究科設置 3 周年
文理融合・医工連携で社会貢献を目指し、学術雑誌『統合科学』を創刊！**

◆発表のポイント

- ・文理融合・医工連携の「統合科学」という新たな学問領域の創出と発展を目指した学術雑誌『統合科学』が 2021 年 3 月 31 日に創刊されました。
- ・ヘルスシステムを巡る諸課題を解決するための研究成果を発信し、「統合科学」のあり方についてさらなる考究・討議する場としたいと思います。

文理融合・医工連携の「統合科学」という新たな学問領域の創出を目指して、岡山大学に大学院ヘルスシステム統合科学研究科が設置されてから本年 4 月で 3 年が経過しました。その間ヘルスシステムを巡る諸課題を解決するための研究が進展するとともに、「統合科学」のあり方についての模索がなされてきました。それら研究成果を発信し、「統合科学」のあり方についてさらなる考究・討議するために本誌が誕生しました。

創刊号には、「『底』への超越と『私と汝』」、「パンデミックへの備えとしての医療資材の循環備蓄：モデル化とシミュレーション」、「ビジネスケース：しまなみ海道の観光資源化」、「看護場面における確認不足を引き起こす要因の認識に関する検討」、「遠隔での見守りのための機器・サービスの調査と訪問看護での利用を想定した分類」といったヘルスシステムを巡る多様な視座からの論文が掲載されています。大学附属図書館のリポジトリからダウンロードして読むこともできますので、是非ご一読ください。

『統合科学』は開かれた学術雑誌です。ヘルスシステムに関連した研究成果の投稿を広く募集しています。是非、ご投稿ください。

新型コロナ禍での投稿規程の策定からというゼロからの出発でしたが、編集委員会のメンバーをはじめとする関係各位のご協力のもとなんとか創刊にこぎ着けることができました。この場を借りてお礼申し上げます。投稿募集中です。



吉葉教授



PRESS RELEASE

■発表内容

<現状>

文理融合・医工連携の「統合科学」という新たな学問領域の創出を目指して、岡山大学に大学院ヘルスシステム統合科学研究科が設置されてから本年4月で3年が経過しました。その間ヘルスシステムを巡る諸課題を解決するための研究が進展するとともに、「統合科学」のあり方についての模索がなされてきました。それら研究成果を発信し、「統合科学」のあり方についてさらなる考究・討議するために本誌が誕生しました。

<『統合科学』の内容>

下記目次から分かるように、本誌にはヘルスシステムを巡る多様な視座からの論文が掲載されています。大学附属図書館のリポジトリからダウンロードして読むこともできますので、是非ご一読ください。

『統合科学』目次

巻頭言

『統合科学』の創刊にあたって……………五福 明夫 1

論文

「底」への超越と「私と汝」……………鈴木 亮三 3

研究ノート

パンデミックへの備えとしての医療資材の循環備蓄：モデル化とシミュレーション・森田 瑞樹 17

ビジネスケース：しまなみ海道の観光資源化……………中尾 光・藤井 大児 21

看護場面における確認不足を引き起こす要因の認識に関する検討

……………左 婉馨・兵藤 好美・田中 共子・五福 明夫 29

遠隔での見守りのための機器・サービスの調査と訪問看護での利用を想定した分類

……………坂本 年生・平田 晶奈・森田 瑞樹 47

活動報告

2020年度における「先進病院実習」の取り組み……………兵藤 好美 65

「岡山リビングラボ」を介したヘルスシステム統合科学の取り組み……………志水 武史 77

海を越えた研究交流活動……………葛 睿 81

<社会的な意義>

日本をはじめ先進各国は超高齢化社会を迎えて様々な社会的課題を抱えているうえに、ポストコロナ禍の新たな長寿健康社会を模索しなければなりません。このことは先進国に限ったことではありません。このような状況下にあって、知の拠点としての大学は、文理融合・医工連携などにより学術知を「統合」することにより、新たなモノや仕組みを創出することにより社会貢献を果たして行かなければなりません。そのような希望が『統合科学』の創刊に込められています。



■雑誌情報

雑誌名：統合科学

発行者：岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科

ISSN：2436-3227

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域

教授 吉葉 恭行

(電話番号) 086-251-7440



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。